

報道関係者各位

2026 年 8 月 12 日 配信予定

8/31 東京・文京シビックホールで小林幸子ら出演

(がん研究支援) チャリティコンサート『生命讃歌』開催

「当たり前な今日を、あらためて大切に。」

順調な毎日にも、思いがけない試練の時にも

——今日、歌える・聴ける・笑えるという当たり前は、実はいちばんの宝物。

世代を超えた名曲とともに、大切な人と分かち合う一夜。

小林幸子は後半約 40 分・全 9 曲を予定。

木山裕策、石原詢子、井上あずみ&ゆーゆ、ヤン・チェン（銭文江）が出演。

必要経費を除いた収益の全額を公益財団法人がん研究会へ寄付。

特定非営利活動法人亜細亜文化藝術交流基金会は、2026 年 8 月 31 日（月）、東京・文京シビックホール大ホールで、(がん研究支援) チャリティコンサート『生命讃歌（Hymn to Life）』を開催します。

出演は小林幸子、木山裕策、石原詢子、井上あずみ&ゆーゆ、ヤン・チェン（銭文江）。総合司会は、NHK 紅白歌合戦で 6 年連続総合司会を務めた宮本隆治です。

人生には、穏やかな日もあれば、思いがけない試練の時もあります。だからこそ、今日も歌えること、好きな歌を聴けること、大切な人と笑えることは、決して当たり前ではありません。本公演が、世代を超えた名曲とともにすべての人へ届けたい想いは、ひとつです——「当たり前な今日を、あらためて大切に。」

チケット売上等から公演に必要な経費を差し引いた収益の全額を、公益財団法人がん研究会へ寄付し、がん研究支援に役立てます。

歌えること、聴けること。その一日を喜びとして分かち合う

『生命讃歌』は、特定の誰かのためだけのコンサートではありません。がんや病と向き合う人にも、大切な人を見送った人にも、そして今、穏やかな毎日を過ごしている人にも。むしろ、当たり前な日常を送れている今だからこそ、その掛け替えのなさを歌を通じて味わっていただきたい。世代を超えて愛される名曲とともに、どなたにも歌を楽しみ、元気をもち帰っていただく一夜です。

舞台の中心にあるのは、出演歌手一人ひとりの歌です。それぞれの代表曲や、その歌手だからこそ届けられる一曲を、生演奏や合唱、舞踊が楽曲に応じて支え、文京シビックホール 大ホールならではの広がりある音楽として届けます。

『生命讃歌』が分かち合う、三つの願い

- ① 今日の喜びを分かち合う — 歌える、聴ける、笑える、大切な人と同じ時間を過ごせる。その「当たり前な今日」の尊さを、あらためて大切にします。
- ② 世代を越えた名曲を楽しむ — 懐かしい歌を聴き、口ずさみ、同じ拍手を送る。その時間を、忘れられない思い出に変えます。
- ③ 楽しむ時間が、支援につながる — 音楽を楽しむ一夜が、そのまま未来のがん研究支援への一歩になります。

忙しい毎日でつい後回しにしてしまう、いちばん身近な人こそ、本当はいちばん大切な人。その存在を会場でもう一度確かめ、また明日を生きる力を持ち帰る。「当たり前な今日を、あらためて大切に。」——その気づきを歌で分かち合う一夜が、未来の命を支える力になる。それが『生命讃歌』の願いです。

世代を超えた歌声と名曲が一夜に

出演者	披露予定	見どころ
小林幸子	『雪椿』『千本桜』など	本公演の大黒柱として後半約 40 分を担い、全 9 曲を披露予定。珠玉の演歌から世代を超えて親しまれる楽曲まで、圧倒的な歌唱力と華やかな存在感で公演をクライマックスへ導きます。
木山裕策	『home』『君に贈る歌』	2008 年 NHK 紅白歌合戦出場。甲状腺がんの手術を経験した後も歌い続け、代表曲『home』をはじめ、家族、生きること、日常の温もりを歌声で届けます。
石原詢子	『みれん酒』『淡墨桜』	乳がんの手術を経て仕事へ復帰。『淡墨桜』では、石原が長年培ってきた詩吟を取り入れた特別構成を予定し、演歌の歌声と日本の伝統表現を重ねます。
井上あずみ&ゆーゆ (今尾侑夕)	『君をのせて』 『さんぽ～となりのトトロ』	世代を超えて愛される楽曲を母娘の温かな歌声で披露。『さんぽ～となりのトトロ』では 28 名の少年少女合唱が加わり、子どもから大人まで楽しめるステージを届けます。
ヤン・チェン (銭文江)	『倅せのむこう側』『山河』	本公演の発起人。『山河』は 50 名の混声合唱と壮大なアレンジを背景に、中国語と日本語の両方で歌い上げます。命の危機を経験し、再び歌える今の思いを自身の歌声に託します。

※出演順・演奏曲・舞台構成は変更となる場合があります。

歌を支える、78 名の合唱と 27 名のスペシャルバンド

本公演には、50 名の混声合唱、28 名の少年少女合唱、27 名編成のスペシャルバンド、中国古典舞踊が参加します。これらは規模そのものを見せるためではなく、歌手の歌を最も生かすための舞台構成です。

ある曲では一人の声を静かに聴かせ、ある曲では生演奏が厚みを加え、ある曲では合唱が歌の世界を広げる。子どもたちの歌声や舞踊も、楽曲ごとの表情を豊かにする役割として加わります。

幕開けは、ドヴォルザークの交響曲第 9 番『新世界より』から〈家路〉。静かな旋律を入口に、歌手たちのステージへと展開し、歌を軸にした一夜の音楽物語をつくります。

この公演が生まれた原点

——日本の医療に救われた、異国の歌手の物語から。

発起人のヤン・チェン（銭文江）は、世界でも症例が極めて少ない後腹膜扁平上皮癌により、命の危機に直面しました。複数の医療機関を受診しても確定診断に至らない中、紹介者を介さず自らががん研有明病院へ連絡。開腹手術を行って初めて病名が判明しました。

手術は10時間にも及び、日本の国際医療チームが診療科の垣根を越えて治療にあたりました。手術中の輸血量は約3,000mL。全身の血液量に近い量で、その血液は名前も顔も知らない献血者たちから届けられたものでした。

10 時間にも及ぶ	約 3,000mL	極めて少ない症例
手術	輸血	後腹膜扁平上皮癌

発起人・ヤン・チェン（銭文江）コメント

「私は、病名も分からないまま不安な日々を過ごし、最後の望みでがん研有明病院に電話しました。手術を終えて目を覚ました時、私の全身には、会ったこともない献血者の方々からいただいた3000mlの血が流れていました。

日本の国際医療チームの皆さまは、異国から来た見知らぬ私を、自分の家族のように懸命に救ってくださいました。診療科の垣根を越え、白衣の人々が力を合わせる姿を見たとき、私は、それこそが世界のあるべき姿なのだと思います。

退院の日、歌えること、人と会えること、食事を味わえること、明日の予定を思い描けること。その一つひとつが以前とは違う輝きを持って見えました。私は、ただ元の人生へ戻ったわけではありません。命の危機を越えた先で、新しい人生、新しい世界へ踏み出したのです。

再び歌える喜びを多くの人と分かち合い、すべての人の健康と希望を願い、医療者と献血者への感謝を未来の命へつなげたい。その願いから、チャリティコンサート「生命讃歌」は生まれました。

そして今、あらためて思います。生死の境をくぐって知ったのは、いちばん身近な人と過ごす「当たり前の日」。こそ、いちばんの宝物だということ。どうかその一日を、あらためて大切に。大切な人と一緒に。」

歌を楽しむことが、未来の命を支えることにつながる

「歌える今日が、いちばんの幸せ」——ヤン・チェンが心からそう思えるようになったことが、この公演の原点です。懐かしい歌を聴き、口ずさみ、笑い、拍手する。その一夜が、未来のがん研究支援につながり、命を救う医療者と献血者への感謝を社会へ伝える機会にもなります。

チケット好評発売中

チケットは 6,000 円から（全席指定・税込）。VIP 席には「VIP 特別栄誉記念メダル」などの限定特典を用意しています。各席種の料金、VIP 限定特典、購入方法の詳細はオフィシャルサイトをご覧ください。

がん関連団体・医療機関・患者支援団体の皆さまへ

—— 団体招待席のご案内

本公演では、がんと向き合う患者さんやそのご家族、日々医療の最前線で命を支える医療従事者の皆さまにも、歌の力で元気を受け取っていただきたいと願っています。そこで、がん関連団体・医療機関・患者支援団体を対象に、団体招待席をご用意しました。お申し込みは団体単位で承ります（個人でのお申し込みはご遠慮ください）。ご希望の団体は、申込フォームよりご連絡ください。

[団体招待申込フォーム QR コード |



販売先	チケットぴあ／ローソンチケット／イープラス
公演詳細・購入案内	https://www.acaef.asia/hymn-to-life/
一般問い合わせ	株式会社オデッセー 03-4426-6303（月・水・金 13:00～17:00）
入場条件	3 歳以下入場不可

報道関係者の皆さまへ

〔取材のご案内〕

発起人ヤン・チェン（銭文江）への個別インタビュー、公演準備・リハーサルの取材・撮影、公演当日の取材を承ります。出演者への取材希望については、各所属事務所へ確認・調整いたします。なお、ご希望に添えない場合がありますので、あらかじめご了承ください。宣材写真、舞台関連資料、発起人に関する写真・映像素材の提供も可能です。

取材をご希望の際は、日程・内容についてお気軽にご相談ください。

〔取材いただける切り口〕

本公演は、**音楽・社会・医療**の各面から取材いただけます。

- 音楽** — 小林幸子が後半約 40 分・全 9 曲を担うステージ。石原詢子が『淡墨桜』で長年培った詩吟を取り入れる特別構成。井上あずみ&ゆーゆの母娘共演。歌手の歌を軸に、27 名編成のスペシャルバンド、混声合唱 50 名、少年少女合唱 28 名、中国古典舞踊が楽曲ごとに加わる舞台構成。
- 社会** — 「当たり前な今日を、あらためて大切に。」をテーマに、世代を超えた名曲を通じて日常の掛け替えのなさを分かち合う公演の趣旨。必要経費を除いた収益の全額を公益財団法人がん研究会へ寄付する取り組み。がん関連団体・医療機関・患者支援団体への団体招待席の提供。
- 医療** — 発起人ヤン・チェンが、症例の極めて少ない後腹膜扁平上皮癌により命の危機に直面し、10 時間に及ぶ手術と約 3,000mL の輸血を経て生還した経緯。医療に関する経緯は、取材時に本人の同意のもと、ご確認いただけます。

〔当日の取材・撮影について〕

公演当日の取材・撮影は事前登録制です。取材可能な時間・場所・撮影範囲は、ご登録後に主催者よりご案内します。

本件に関する報道・取材お問い合わせ

特定非営利活動法人亜細亜文化藝術交流基金会

TEL：03-6326-5858（月～金 10:00～18:00） E-mail：info@acaef.asia

土日祝・緊急連絡先：090-3506-1916（天海）

オフィシャルサイト：<https://www.acaef.asia/hymn-to-life/>

公演概要

公演名	チャリティコンサート『生命讃歌（Hymn to Life）』
日時	2026 年 8 月 31 日（月）17:30 開場／18:30 開演
会場	文京シビックホール 大ホール（東京都文京区春日 1-16-21／約 1,800 席）
出演	小林幸子、木山裕策、石原詢子、井上あずみ&ゆーゆ（今尾侑夕）、ヤン・チェン（銭文江）
総合司会	宮本隆治
舞台サポート	27 名スペシャルバンド、混声合唱 50 名、少年少女合唱 28 名、中国古典舞踊
寄付先	公益財団法人がん研究会
寄付方針	公演に必要な経費を除いた収益の全額を寄付
主催・企画	特定非営利活動法人亜細亜文化藝術交流基金会
発起人	ヤン・チェン（銭文江）
製作	百年メディア株式会社
製作協力	株式会社ブレーンボックス
特別協力	一般社団法人日本華文教育協会
後援	東京都／公益社団法人日本中国友好協会 厚生労働省（予定）

※厚生労働省の後援名義は申請済みで、現在承認手続き中です。正式承認後、表記を更新します。